

第2学年 学級活動(1)指導案

令和5年11月2日(木) 第5校時

第2学年2組 児童数34名

授業者 芝田 菜花

1 議題「4年生におれいをしよう」

(ア 学級や学校における生活上の問題の解決)

2 議題について

(1) 児童の実態

9月に、研究主題に対する児童の実態を把握するための調査を行った。

アンケート項目	肯定的回答の割合
学習の中で話し合うことは好きですか。	77. 2%
授業でよく発表していますか。	79. 7%
友達の意見を聞くのは好きですか。	92. 7%

結果を見ると、どの項目についても肯定的回答が高い値を示しており、話し合い活動について意欲的な意見をもつ児童が多い。話し合いがあまり好きではない理由としては、「①自分の考えをうまく話すことができないから②自分の考えを言うのが恥ずかしいから③自分の考えが認められないことがあるから④自分の考えがもてないから」という理由が挙げられる。これらの点を改善するために、学級会では以下のような点を工夫した。

①自分の考えをうまく話すことができない

手立て: 話型の指導、学級会ノート

自分の意見を言うときは「私は〇〇に賛成/反対です。理由は〇〇だからです。」という話型 を使って話すように指導している。話型があることによって、話し方の基本がわかり安心して話すことができると考える。また、事前に学級会ノートに自分の考えを書くようにすることで、学級会の時に慌てることなく思いを伝えることができる。学級会ノートは宿題として週末に出すことによって、お家の人と相談しながら意見を書いてもよいこととし、全員が思いをもって学級会に参加できるようにする。

②自分の考えを言うのが恥ずかしい

手立て: 話し合いの座席の工夫

3人で一つの机を使う形で話し合いの座席を配置した。また、学級全体が丸くなって話をするので、お互いの顔を見ながら話を聞くことができるので安心して考える。また、グループでの話し合いの時間を設け、学級全体で意見を発表する前に小グループの活動を挟むことで、安心して発表できるようにしていく。

③自分の考えが認められないことがある

手立て: 出てきた意見を生かした合意形成

反対意見が出てきたときには、解決策をみんなで考えられるよう促していく。なるべく多数決で決めずに、意見を合体させる、時間を区切って少しずつ行う等の案を出し、話し合いで合意形成をしていく。今回採用されなかった意見は、なるべく学級の時間等に活用できるようにする。

(2) 議題設定の理由

今まで、本学級の学級目標である「むずかしいことにもちようせん！明るく元気でなかよしなクラス」の中の「なかよし」を実現するために、学級での集会活動を中心に行ってきた。今度は、学級だけでなく他の学年やクラスとの「なかよし」を実現したいという思いが出てきた。また、4年生には兄弟学級遊びでお世話になっているということから、この議題を選定した。

「何をするか」「工夫はどうするか」という2点について、互いの意見を尊重し合いながら計画を立て、実践できるように指導していく。また、友達と協力して集会の計画、実践を行うことで、学級への所属感も高めていく。4年生へのお礼を通して、感謝の気持ちを伝えることの心地よさに気付き、よりよい人間関係を築く力を育てていきたい。

(3) これまでの学級会(児童が司会グループを担った回数)

回数	日付	議題
1	4月11日	1学期の係をしよう
2	6月20日	〇〇くんおかえり会をしよう
3	7月11日	1学期がんばったね会をしよう
4	9月 5日	2学期の係をしよう
5(1)	9月12日	〇〇くんようこそ会をしよう
6(2)	9月19日	たんじょうび会をしよう
7(3)	9月26日	ひまわりサンバがんばろう会をしよう
8(4)	10月 4日	ハッピー2組しゅう会をしよう
9(5)	10月18日	あいさつうんどうをしよう
10(6)	11月2日	4年生におれいをしよう

3 本学級における評価基準

よりよい生活を築くための知識・理解	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。話合いの進め方や意見の出し方、聞き方を理解し身に付けている。	学級生活を豊かにするために、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図りながら、仲よく助け合って実践している。	学級生活を豊かにするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

学級生活をより楽しく豊かなものにするために、友達の立場や思いを察しながら、4年生へのお礼の計画を考えることができるようにする。

(2) 児童の活動計画(当日配布)

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿(観点) 【評価方法】
1 始めのあいさつ 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話合い 話合い① 「何をするか」 話合い② 「工夫をどうするか」 7 決まったことの発表 8 先生の話 9 ふりかえり 10 終わりのあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって進行できるように、めくりプログラムを活用する。 ・提案者の思いを確認し、学級全体で考えていく必要があることを確認する。 ・意見は事前に出し合っているので、意見の確認をしてから話合いを始める。 ・話合いの内容がそれてしまいそうな場合は、提案理由に立ち返り、話し合っ決定できるように助言する。 ・反対意見を述べる際は、賛成意見も含めて述べるよう事前指導する。 ・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、必要に応じて助言する。 ・3人グループで話し合いの時間を設ける。 ・学級目標を意識した意見、合意形成を図った意見、司会グループの頑張りなどを称賛する。 ・振り返りの視点を提示する。 	◎目指す児童の姿(観点) 【評価方法】 ◎友達の思いを認めながら、よりよい解決方法を伝えている。(思考・判断・表現) 【観察】

